

株式会社モビリティプラスのEVラリーカーが、TRDラリーチャレンジのゼロカーに！！

6月1日(日)トヨタ自動車主催する2014TRDラリーチャレンジIN徳島が、西日本第2の霊峰の剣山(標高1,955m)を走る日本最長の林道、剣山スーパー林道(総延長距離87,7km)を使って開催され、(株)モビリティプラス(代表取締役三輪智信社長)所有のラリー競技用車両に改造した電気自動車、日産リーフ(愛称 ラリーフ号)がゼロカーとして登場した。

この車両は、昨年11月に愛知県新城市で開催された全日本ラリー選手権の国内最終戦で、電気自動車として初の競合のガソリン車を抑えJN-1クラス優勝を果たした車両。

ゼロカー(=0カー)とは、オフィシャルコースカーのひとつで、日本のラリーでは「先行車」と呼ばれ、参加する競技車より先行してラリーで使用される全てのルートを行き、安全上の最終確認を行い大会本部に報告したり、サイレンを鳴らすなどしてよいよこれから競技車がやってくることを観戦エリアに知らせる役割も担う。

またファンサービスの1つとして、有名ドライバーを0カーのドライバーとして起用したり、往年の名車を登用することもあり、商業的にも重要で、伝統的にも名誉ある役割を担う。

今回のゼロカーは、モリゾウ選手として自らもドライバーとして参戦する、トヨタ自動車の豊田章男社長からの要請に三輪社長が応えたもので、ラリーを自動車文化として楽しむ土壌が既に定着しているヨーロッパ等の海外に対して、将来的に世界ラリーチャンピオンシップ(WRC)を日本に招致したい豊田章男社長の夢と、日本のラリーに対する次世代自動車等の先進的な取り組みを動画で配信するため実現した。



(左)自動車評論家

ドライバー国沢光宏氏

(中央)トヨタ自動車

モリゾウ選手こと豊田章男社長

(右)三輪タイヤ

コ・ドラ三輪智信社長